

8月 18日 (水) 「包括連携協定」・「子どもの貧困対策に関する協定」締結式



町と日本郵便株式会社沖縄支社(久田雅嗣支社長)による「包括連携協定」および、町と日本郵便株式会社沖縄支社、町社会福祉協議会(大城幸哉会長)の三者による「西原町における子どもの貧困対策に関する協定」の締結式が行われました。

包括連携協定では、これまで行われていた郵便配達業務中に住民の何らかの異変に気付いた場合や道路の損傷などの発見時に情報提供による連携を、より広範囲にするため安心・安全な暮らしの実現や地域経済活性化、未来を担う子どもの育成などに関する5つの分野の連携が行われます。

また、子どもの貧困対策に関する協定では、町内の郵便局に設置した「フードボックス」に家庭で使いきれず保管したままになっている食べ物などを持ち寄っていただき、

社会福祉協議会を通して子どもの居場所へ寄付が行われます。久田支社長は「地域に寄り添う郵便局として、未来を担う子どもの育成や西原町の食支援活動の一助になればと思う。町民の皆様の寄付があつてのものなので、ぜひご協力をお願いします」、大城会長は「コロナ禍で困っている家庭に対して皆様の協力により支援していきたい」と話しました。崎原盛秀町長は「子育て世帯が安心して暮らせる地域社会を築き、持続的な食糧支援が出来ることを期待しております」と感謝しました。

西原町内の郵便局窓口にある「フードボックス」へのご寄付にご協力をお願いします。



ご寄付いただきたい食品

お米、粉もの、乾麺、乾物、インスタント・レトルト食品、缶詰、各種調味料、お菓子など

寄付食品の条件

- ◆未開封の食品 ◆常温で保存が可能な食品
  - ◆賞味期限が1か月以上残っている食品
  - ◆製造者名が記載されている食品
  - ◆お米は精米日から一年以上のもの
- ※お寄せいただいた食品について、腐敗等使用に適さないと判断した場合、処分させていただく場合があります。ご了承ください。

6月 22日 (火) 7月 16日 (金) タブレット端末で平和学習・西原の塔で平和集会



坂田小学校では慰霊の日を前に、「自ら事実を調べ、読み取り、意見を主張する力を付ける」ことをねらいに、初めてタブレット端末を使用した平和学習が行われました。5年生は金城明美校長による戦争マラリアの歴史についての講話を、折れ線グラフなどのデータを活用しながら学習し、6年生はタブレット端末を使用して沖縄戦などについて調べ、平和な世の中にするために出来ることについて考えました。6年1組の宮里希空さんは「ひいおばあちゃんから戦争の話しを聞いて、戦争は色んな人を巻き込んで、何も悪いこと



をしていないのに自ら命を落としたりして嫌だなと思った。命を大切に平和を守っていきたい」と話しました。7月16日には6年生が西原の塔の見学を通して、激戦地だった西原の様子について学び、気持ちを込めて黙清掃を行いました。また、児童会中心に行った平和集会では、「けっして命の重みをわすれぬ、けっして命を奪う戦争を起こさない」と力強い平和宣言を行ったあと、平和への思いを込めて唄った「月桃」の歌声が西原の塔に響き渡っていました。

7月 13日 (火) 青年海外協力隊 特別派遣前訓練生活動報告



新型コロナウイルス感染症拡大の影響でJICA海外協力隊の海外派遣が延期となった期間を利用して、4月から約3か月間、西原町で活動していた特別派遣前訓練生の安田裕哉さん、中村仁美さんの活動報告が行われました。

安田さんは、さわりんガーデンヴィレッジ(レンタル農園)の農地整備やふるさと納税返礼品の農家登録などの活動を行い「農業などの知識の幅を広げられ学ぶことの方が多く、短期間ではあるが濃い時間を過ごせた。任国では貧困に苦しんでいる人たちが農業で助け、幅広い分野でも対応出来るよう地域活性化に取り組んでいきたい」と話しました。

中村さんは、SNSを活用して西原町の魅力発信や西原劇場集客のための活動などを行い「町の課題解決を通して、教えてもらうことの方が多く、人の温かさに救われた。任国では小学校教育で子どもたちが自ら行動する主体的な教育方針に取り組み、一つ一つの縁と沖縄の「よんな～よんな～」の気持ちを大切にしていきたい」と話しました。

崎原盛秀町長は「これから2年間現地に行くといろいろな逆境があると思いますが、約3か月間の西原町での経験を活かして、楽しんで活動をしてほしいと思います」と激励しました。

7月 15日 (木) ネット・スマホを正しく利用しよう! 西原東小で講話



西原東小学校で6年生を対象に、町教育委員会の新垣和哉主幹によるインターネットやスマホなどの正しい利用法に関する講話が行われました。

新垣主幹は、SNS上でのいじめや、若い世代に広がる薬物被害など、ネット上で実際にあったトラブルの事例を紹介し、犯罪に巻き込まれないために注意するよう呼びかけました。

講話を聞いた仲宗根ひなたさんは「SNSにはいいところ、悪いところもある。情報がいっぱいあるけど、ありすぎて何を信じていいのか分からない。また、相手のことを思ってメッセージを送るように気を付けながら活用していきたい」と感想を話しました。

7月 19日 (月) 第9回 西原町少年の主張大会



第9回西原町少年の主張大会がさわふじ未来ホールで開催されました。大会には各中学校から3名ずつの6名が参加し、中学校生活での気づきや葛藤、体験を通して学んだこと、自信を持つことの大切さ、社会問題などを自身の言葉で堂々と発表しました。最優秀賞には西原中学校3年生の知念明加梨さんが選ばれ、9月6日に開催される中頭地区少年の主張大会へ派遣されます。

知念さんは「自分の力を出し切って、笑顔で頑張ります」と中頭大会に向けて意気込みを話しました。

**最優秀賞**  
西原中学校3年 知念 明加梨 「仕事に責任を持つ」

7月 29日 (木) 愛の贈りもの 医療従事者への飲料水寄贈



(一般社団法人)沖縄県建設業協会 浦添・西原支部(名嘉太助支部長)より、新型コロナウイルスワクチン集団接種に携わる医療従事者へ500mlペットボトルの飲料水1,128本の寄贈がありました。5月にも飲料水を寄贈していただき、今回が2回目となります。

根保直樹副支部長は「町もワクチン接種の対応で大変だと思うので、この支援が一助になればありがたい。ぜひ有効活用してもらいたい」と話し、崎原盛秀町長は「5月にも同様に提供していただき、スタッフの熱中症対策にも役立っている。毎年いろいろな形で地域貢献してもらい感謝しています」とお礼を述べました。

※広報紙に掲載する写真については、撮影時のみマスクを外しております。